

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	現代社会Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0090		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	3		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		・『ちくま 評論文の読み方』（筑摩書房、2021年） ・西口智也監修『テーマ別 漢字&語彙の徹底攻略2500+』（東京法令出版、2019年）					
担当教員		白神 宏					
到達目標							
国語の理解能力・思考力・鑑賞力を養い、文章表現力を磨き言語活動の向上を図る。 授業では評論文の学習を通して主題を多角的にとらえる理解力、理論的に問題を考える思考力の向上を図る。 語句・漢字学習を通して社会生活に必要な基本的な表現力・文章力を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章を読み、構成・展開を踏まえた読解ができる。		論理的な文章を読み、構成・展開を理解することができる。		論理的な文章を読み、構成・展開を理解することができない。	
評価項目2		論理的な文章を読み、論旨を理解し簡潔に要約することができる。		論理的な文章を読み、論旨を理解し要約することができる。		論理的な文章を読み、要約することができない。	
評価項目3		形式・目的に合わせた文章（説明文・論述文）を理解し、適切かつ的確に作成できる。		形式・目的に合わせた文章（説明文・論述文）を理解し、作成できる。		形式・目的に合わせた文章が作成できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		国語の理解能力・思考力・鑑賞力を養い、文章表現力を磨き言語活動の向上を図る。 授業では評論文を主に扱い、文章の構成や展開をとらえる理解力、理論的に問題を考える思考力の向上を図る。 語句・漢字学習を通して社会生活に必要な基本的な表現力・文章力を身につける。					
授業の進め方・方法		次回学習する単元については、語句の読みや意味を調べ把握しておくこと。また、疑問点や自らの意見を整理しておくこと。 授業は応答を中心に進めるため、問いに対して主体的に応答すること。 授業中に参考図書などを紹介するので、それをもとに自らの問題意識・関心を広げることがのぞまれる。					
注意点		語彙力を養うため、授業では漢字小テストを行う。 講義中にグループワークやペアワークを行う。					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		本授業の目的を理解し、今後の授業の進め方を把握する。		
		2週	レトリック①		日本語の修辞技法を理解する。		
		3週	レトリック②		修辞技法を用いて文章を書くことができる。		
		4週	文章を構造的によむ①：「インターネットは何を変えたのか」		論理的な文章を構造的に読解することができる。		
		5週	文章を構造的によむ②：「インターネットは何を変えたのか」		論理的な文章の構造を説明できる。		
		6週	文章を構造的によむ③：「余白の美学」		論理的な文章を構造的に読解することができる。		
		7週	文章を構造的によむ④：「余白の美学」		論理的な文章の構造を説明できる。		
		8週	前半のまとめ		前半の復習をすることでさらなる理解の定着化をはかる。		
	4thQ	9週	演習①		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		10週	演習②		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		11週	演習③		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		12週	演習④		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		13週	演習⑤		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		14週	演習⑥		論理的な文章を構造的に読解し、要約が行える。		
		15週	まとめ		後期の授業を振り返り、構造的な読解手法・文章要約のさらなる理解の定着化をはかる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。		3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。		3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。		3	

				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	

評価割合

	小テスト	演習・レポート					合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	70	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0